PRESS RELEASE
報道関係者各位

2026年11月吉日
株式会社田井鐵工

製品・空間づくりの新たな選択肢に。
アルミダイカストの新ブランド「Tai36」

世界の自動車産業を支える精密な製造技術で、美しい造形と量産性の両立へ。創業108年の田井鐵工がDESIGNART TOKYO 2026に出展、開発したクランプが会場什器の接合部品として採用

自動車向けアルミダイカスト部品を年間約2,000万個※供給する株式会社田井鐵工（本社：兵庫県西脇市、代表取締役社長：田井　甫）は、「DESIGNART　TOKYO　2026」にて、新ブランド「Tai36（タイサーティーシックス）」のプロダクトを初披露しました。2026年10月30日（金）から11月3日（火・祝）まで、東京・銀座の特設メイン会場「AUTOBAHN／KK線」に出展。単管パイプ用クランプ「P/P 1」「P/P 2」と、三徳包丁用アルミニウムハンドル「H/B 1」を展示しました。クランプは、会場内の「AUTOBAHN – The Design Store」の什器を構成する接合部品にも採用され、空間づくりに協力しました。
両製品は、田井鐵工と同じグループに属する株式会社ティーティーコーポレーション（TTC）の協力を得て開発しました。※2025年度販売実績、自社集計



左から、アルミダイカスト製パイプクランプ「P/P 1・P/P 2」を使用した展示什器、同クランプのディテール、三徳包丁用アルミニウムハンドル「H/B 1」

アルミダイカストは、溶かしたアルミニウム合金を高圧で金型に流し込み、複雑な形状を精密に量産する製造技術です。Tai36は、自動車産業の厳しい品質要求に応え、複雑な形状を安定してつくり続けてきた田井鐵工の技術を、国内外のデザイナーやクリエイター、メーカーとの協業によって新たな表現へとつなぐブランドです。アルミニウムの質感や手触り、造形の美しさを、使い手が求める機能とともに形にする。その積み重ねから新たな用途を切り拓き、アルミダイカストの可能性を、播州から世界へ届けていきます。
ブランド公式サイト：https://www.tai36.jp/

■ 空間の表情をつくりだす、接合部。

単管パイプ用クランプ「P/P（PIPE / PIPE）」シリーズは、「DESIGNART TOKYO 2026」の会場づくりに携わるデザイナーらの要望から生まれました。建設現場で使われるスチール製クランプには、締結部分が外側に張り出すものも多く、無骨な存在感があります。今回求められたのは、パイプを確かにつなぎながら、展示商品を引き立てる空間になじむ造形と質感。その意図に応える接合部が、既存の製品には見当たりませんでした。この課題に、田井鐵工はアルミダイカストによる新たなクランプを提案。自動車部品づくりで培った、複雑な形状を精密に量産する技術と、金型から鋳造・加工・仕上げまでの一貫した製造体制を生かし、接合部の機能と意匠を一つの形にまとめました。
開発から製造までは約３か月。大きく厚みのある形状の成形に挑み、金型の継ぎ目や成形痕、ねじの配置が造形を損なわないよう細部を調整しました。柔らかな曲面がアルミニウムの質感を引き立てるクランプに仕上げています。
完成したクランプを採用したのは、「AUTOBAHN – The Design Store」のキュレーションを担うジャン・リュック・コロナ・ディストリア氏。


単管パイプ用クランプ「P/P 1」「P/P 2」の接続例。パイプの直線と、アルミダイカストによる柔らかな曲面が調和する

パリのコンセプトストア「Merci」など、数々のリテールプロジェクトに携わってきた同氏と、空間デザインを手がけた建築コレクティブ「GROUP」のもと、展示商品を引き立てる什器の一部となりました。ジャン氏は、「田井鐵工のクランプは、ディスプレイのデザインコンセプトを明確にする上で非常に重要な役割を果たしてくれました」と語っています。会場では、デザイナーやイベントの企画・運営者から、導入への期待や製品に対するさまざまな意見が寄せられました。こうした声を受け、展示・店舗什器への活用やラインアップの拡充を見据えながら、国内外での本格販売に向けて準備を進めています。

■ 包丁づくりを、柄から支える。
H/B 1（HAND / BLADE）｜三徳包丁用アルミニウムハンドル

日本製の包丁が海外でも支持を集めるなか、その生産を支える「柄」に目を向けたのが、今回初披露したTai36の第一作「H/B 1」です。開発の起点は、小林氏が刃物職人との関わりのなかで捉えた、木製の柄の供給不足でした。現場の課題と田井鐵工の精密な量産技術を結びつけ、安定供給と取り付けやすさを目指した、ブランドの思想を体現するプロダクトです。
形は、使い継がれてきた八角形に。刃に近い側へ緩やかに細くなる柄は、手の大きさに応じて握る位置を選びやすく、八角形の断面には転がりにくい合理性も備わっています。こうした伝統の形に備わる工夫を尊重し、さまざまな刃と調和する普遍的な形を、アルミダイカストで再構築しました。



三徳包丁用アルミニウムハンドル「H/B 1」と、播州刃物の刃を取り付けた状態の展示

耐食性に優れたアルミニウム合金を採用し、内部を中空にすることで、重厚な見た目に反する軽さを追求。中子（なかご）をボルトで固定する構造で、組み立てやすさにも配慮しています。
シルバー、グレー、メタリックの3種類を展開。表面処理や仕上げによって質感や色合いを変えられることも、アルミダイカストを用いた製品づくりの魅力です。

■ Tai36について

「アルミダイカストは、美しい。」を掲げ、自動車産業で培った精密な製造技術にデザインの視点を掛け合わせる、株式会社田井鐵工のオリジナルブランド。国内外のデザイナーやクリエイター、メーカーとの協業を通じて、素材の質感や造形、機能を追求し、新たな製品や用途を開拓していく。金型から鋳造、加工、仕上げまでの一貫した製造体制を生かし、品質・コスト・安定供給まで見据え、アルミダイカストの可能性を播州から世界へ届ける。
アルミニウムは、使用後も適切な分別・処理を経て再溶解し、原料として再利用できる素材。素材を循環させながら新たな価値を生み出すことも、Tai36が目指すものづくりの一つである。
クリエイティブディレクション・プロダクトデザイン：合同会社シーラカンス食堂／MUJUN
ブランドサイト：https://www.tai36.jp/
Instagram：https://www.instagram.com/tai36official/

会社概要

1918年、織物の産地である兵庫県・播州で創業。織機の修理・整備から出発し、自ら織機を製造・販売するメーカーへ。その過程で培った鋳造・加工技術を、自動車用電装部品や水中ポンプへと展開してきた。
108年の歴史を貫くのは、産業の変化を捉え、技術の使い道を切り拓く姿勢。現在は、金型・鋳造・加工・仕上げの一貫した製造体制と、自動化・無人化による生産技術を強みに、世界の自動車産業を支える。複雑な形状を高い精度で量産し、品質・コスト・納期の要求に応えてきた技術と経験を、Tai36を通じた新たな製品開発にも生かしている。

TAINEXAS
株式会社 田井鐵工

会社名：株式会社田井鐵工（読み：たいてっこう）　代表者 ：代表取締役社長 田井 甫
創業 ：1918年4月　所在地：兵庫県西脇市上野323-1
事業内容：事業内容：自動車用電装部品・水中ポンプの製造、自社ブランド「Tai36」の製品開発など
Webサイト：https://tainexas.jp/

本件に関する報道関係者様のお問い合わせ先

株式会社田井鐵工　経営企画室
副室長　吉田 哲也
TEL：0795-22-2931　MAIL： yoshida-tetsuya@tainexas.jp
WEB：https://tainexas.jp/

リリース全文は下記URLまたは
QRコードより最新記事をご覧ください
https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/193195